

注意点1 右手&左手

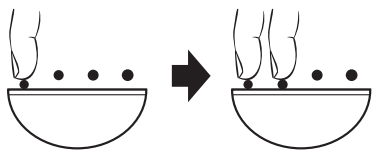
音を短く切って アタック感を演出せよ!

これまで練習してきたタッピング・フレーズは、すべてコード感を生かした“コード・タッピング(メロディック・タッピング)”だ。コード・タッピングでは、1音1音しっかり伸ばす必要があるが、このページのエクササイズのような“パーカッシブ・タッピング”では、コード感ではなくアタック感を生み出すことがポイントになる(図1)。基本的に両手ともタッピング後、すぐに離弦して音を短く切ることが大切で、歯切れの良いシーケンス・フレーズを目指そう。右手&左手のコンビネーション、リズム、タッピングのアタック感などに注意しながら、指を指板にバシバシ叩き付けるようにプレイしてもらいたい。

このページのエクササイズは、まず始めに付属CDの模範演奏を聴いて、ニュアンスをしっかりと掴むことが大切だ。TAB譜だけを見て、いきなり練習を始めないようにしてほしい。どのフレーズも、同じリズム・パターンのくり返しなので、模範演奏を聴けば、すぐにリズムを掴めるだろう。メイン・フレーズでは、左手は人差指で3弦(ルート音)、薬指または小指で2弦(5度)をタッピングし、右手は中指で1弦、人差指で2弦を叩く(写真①~④)。指順は左手人差指→左手薬指(小指)→右手中指→右手人差指となり、両手のコンビネーションに注意することが大切だ。リズムのズレと指によって音量差がつかないように気をつけて、機械的にプレイしよう【註】。

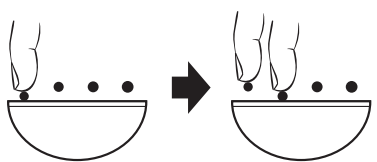
図1 タッピングの比較

・コード・タッピング



前の音を残しながら、次の音をタッピングすることで、コード感を生み出す。

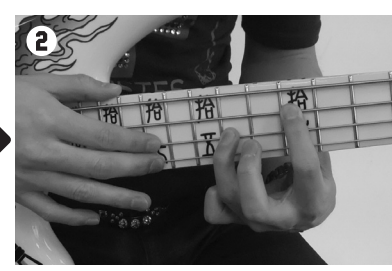
・パーカッシブ・タッピング



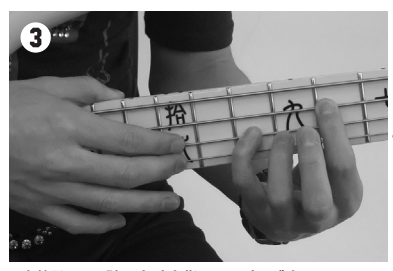
1音ずつ切りながらタッピングすることで、アタック感を生み出す。



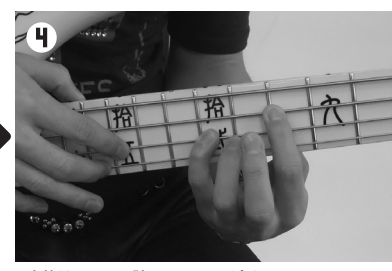
1小節目のポジション。歯切れ良く弾くことが大切。



2小節目のフォーム。滑らかに移動しよう。



3小節目から2弦は左手小指でタッピングする。



4小節目のみ1&2弦のフォームが変わる。

注意点2 右手&左手

素早いヒット&アウェイで ハーモニクス音を出そう!

松フレーズは、1&2弦を押弦しながら、右手でハーモニクス・ポイントを叩くタッピング・ハーモニクス・フレーズだ。1&2小節目では、1&2弦9フレットを押弦し、その1オクターブ(=12フレット)上の1&2弦21フレットを右手人差指と中指で交互に叩いて、ハーモニクス音を出す。ただし、模範演奏では時折、低音弦側(おもに17フレット)のハーモニクス・ポイントを叩いて、異なった音程のハーモニクスを鳴らしているので注意してほしい(写真⑤~⑧)。タッピング・ハーモニクスは、指先でスラップを弾くイメージで、フレットを“素早く叩く&離す”ようにすると、綺麗に発音できるだろう。



松フレーズ1&2小節目。1&2弦9fを押さえて……



21fを右手で素早く叩こう。指を離すのもスピーディに!



時折、17fを叩くことで……



ハーモニクスの音程に変化をつけることができる。

【機械的にプレイしよう】パーカッシブ・タッピングを機械的に演奏するためには、タッピング音をいかに的確に切るかがポイントになる。素早く離弦しながら、弦の振動をしっかりと止めるように心掛けよう。